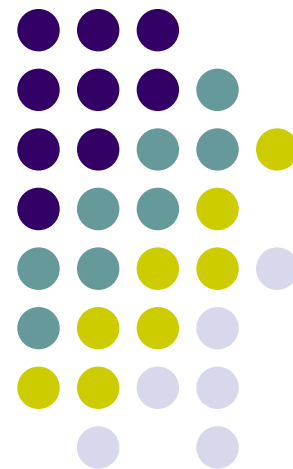


H.18年度 教育学部専門科目
臨床心理学(2)
(臨床精神医学)

教育臨床心理学ゼミ

教育学研究科付属子ども発達臨床研究センター

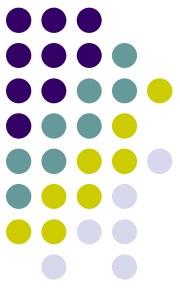
田中 康雄





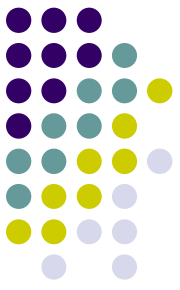
本日の流れ

- 前回の意見への返答
- ライフサイクルと社会



前回の意見への返答(1)

- 人の心に迫るアプローチについて
 - いくつかの方法論があり, その融合が大切
 - 文化系ルートも, 社会学的ルートも結局は理科系ルートにしか見えない。こうした線引きがナンセンスであり, 勉学を阻害する要因ではないか
 - 確かに, 分類すること, 便宜上でも区分けすること自体に問題がある
 - 同時に, それぞれの足場, 理論的背景がある程度は必要かもしれない
 - 分野横断的, 学際的, という視点と総合的, 統括的視点ということといっても同じような矛盾点が生まれる可能性もある



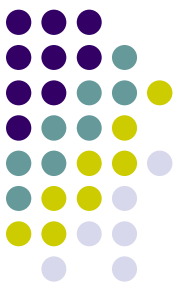
前回の意見への返答(2)

- 思春期・青年期の情緒障害と、学校・社会制度との関連について
 - 本日の講義で触れてみたいと思います
- 精神医学における予防医学とは？
 - 一次予防: 発生率を下げることを目的にしている
 - 進行麻痺, ペラグラ, 脳血管障害など一部
 - 二次予防: 早期発見と早期治療
 - 発達障害における早期対応, 羊水診断?, 再発防止活動
 - 三次予防: 慢性化防止, 社会的活動の向上, リハビリテーション
 - グループホーム, 就労支援, 様々な偏見の是正活動など



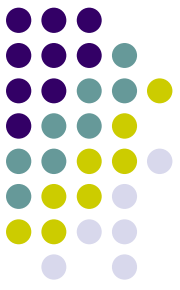
前回の意見への返答(3)

- フロイトの学説と学派がなぜ廃れていったのか
 - 無意識にある思いのエネルギーをコントロールするうえで生じる葛藤, つまり「心の中で起きていること」への興味関心は「廃れていない」
 - その心の有り様について, 先鞭をつけたフロイトの理論を超える新しい洞察を手に入れたい, 独自の理論を組み立てたい, 治療的に貢献したいという欲
 - 忠実な弟子
 - 対立, 分離
 - 補足, 修正
 - 翻訳



前回の意見への返答(4)

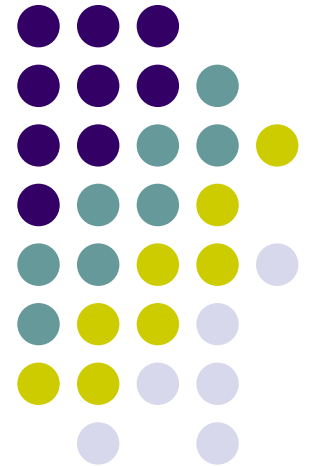
- 精神分析には、近年、さまざまな学派が生まれたが、真理はその中間にあるように思われる。問題は、それを判断するために何らかの客観的なよりどころを得ることである。
- 精神分析は、自分の生存上の問題を克服する助けとなるために考えられた理論であり治療法なのだから、そこで観察され、働きかけられるべき資料は、精神分析的にはどの学派に属する思考法をとるにしても、同じはずである。事実の一つなのであるから、それがどのように叙述されていようとも、どこかに一筋のつながりがあるはずである。
- どんな学派も他の学派と同じデータの一部を観察し、解釈していなければならぬはずである。
- もしだれかが違いを強調するのをやめて、大きな発達の流れに注目しようとするれば、精神分析はある一つの方向に前進し続けて、いろいろな学派が皆それぞれのために役立っていることに気づくだろう
 - クララ・トンプソン「精神分析の発達」



前回の意見への返答(5)

- 障害あるいは疾病が診断されることのメリット、デメリットがあるのではないかと
 - 全体の講義で伝えたいところですよ
- 要望
 - 発達障害，思春期・青年期について詳しく知りたい
 - 老年期について，詳しく知りたい
 - 実例，現場の様子を知りたい
 - べてるの家について知りたい

ライフサイクルと社会





臨床症状の意味(1)

● サインとしての症状

- 自らにある「生きにくさ」, 「困り感」といった「葛藤」の表現
- 生きにくさは困り感は, 自分自身と対象(対・人, 対・社会, 対・価値観)との間に生まれる
 - (お母さんが)助けてくれない
 - 一番になれない
 - ほめてもらえない
 - 叱られた
 - 悪口をいわれる, 無視される
 - 思った結果が出せない など



臨床症状の意味(2)

- 葛藤とは
 - 漠然とした不安, 恐怖体験
 - よるべなさ
 - 明確な不安・恐怖体験
 - 事件, 事故, けが
 - 叱られ・批判される, 低い評価などの体験
 - 対人
 - 自己評価の受け入れがたさ
 - 対自己
- 精神的安定を計ろうとする: 防衛機制



防衛機制の水準と内容(1)

- 高度な防衛機制
 - 愛他主義
 - 博愛主義, 献身的態度
 - ユーモア, 皮肉, 笑い
 - 昇華
 - 芸術, スポーツ活動など
 - 意図的な抑制
 - 考えないようにする
- 無意識に置く防衛機制
 - 置き換え
 - 弱い者いじめ
 - 解離
 - 断片的認識
 - 知性化
 - 感情の隔離
 - 失感情
 - 反動形成
 - 不安なときの強がり
 - 抑圧
 - 失声など



防衛機制の水準と内容(2)

- **イメージの歪曲**
 - 価値の引き下げ
 - 自他の否定的側面の強調
 - 理想化
 - 肯定的要素の過度な強調
 - 万能感
- **高度なイメージの歪曲**
 - 投影同一視
 - 投影された相手はその感情を抱く
 - 分裂
 - 快と不快がうまく統合されない
- **否定の水準**
 - 否認
 - 拒否
 - 投影
 - ほかの人のものにする
 - 合理化
 - 安心するための誤った説明
- **行為の水準**
 - 行動化
 - 暴力, 手首自傷
 - ひきこもり
- **制御不能**
 - 妄想, 病的否認など



臨床症状の意味(3)

- 症状とは
 - 葛藤それ自体
 - 不安, 恐怖など
 - 葛藤処理としての防衛機制の表出
 - ひきこもり, 行動化, 解離, 感情の隔離など

関係性の発達



継続的な世話						
他者との出会い						
課題の達成						
多語文・疑問文の応答（ルール遊び）						
指さし・言語要求（目的遊び）						
自己中心的な哺乳・発声（感覚遊び）						
エリクソン	I	II	III	IV	V	VI
年齢	0～1	1～3	3～7	7～15	15～25	25～
課題	楽しむ・愛着	自己主張・反抗期	自己制御・親離れ	有能感	自分は何者か	無償の愛



家族のライフ・サイクル

	I	II	III	IV	V	VI
	成人前期			中年期		老年期
年齢	30～	35～	40～	45～	55	65～
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・就職 ・結婚 	<ul style="list-style-type: none"> ・第1子誕生 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの受験 ・家族外社会への参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・家を構える ・末子の家族外社会への参加 ・家族機能の縮小 ・父母関係の新たな再構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・第1子の結婚・別居 	<ul style="list-style-type: none"> ・末子の結婚・別居 ・父母の祖母化 ・配偶者の死
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・大人の世界に入る ・親(育てる者)になる 		<ul style="list-style-type: none"> ・己の思春期時代の反抗への再会 	<ul style="list-style-type: none"> ・耐久力 	<ul style="list-style-type: none"> ・大人同士としての関係性成立 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族同士の関係性成立



時代的変遷と背景(1)

年代	時代的背景	内的価値観	高等学校進学率	平均婚姻年齢	離婚率	女性の示す状況	男性の示す状況
1950年代 家父長的 家族	家庭電化 ブーム (テレビ, 洗濯機, 冷 蔵庫の三 種の神器) 消費は美 徳, 使い捨 て文化 女性の就 労率の向 上 家族制度 の崩壊	正直, まじ め, 勤勉, 律儀, 気配 り, 役割意 識などの 執着気質 文化	42% 男48% 女36%	男性27歳 女性24歳	0.8~1%	ヒステリー 社会参加 への葛藤	対人恐怖 社会評価 への葛藤



時代的変遷と背景(2)

年代	時代的背景	内的価値観	高等学校進学率	平均婚姻年齢	離婚率	女性の示す状況	男性の示す状況
1960年代 マイホーム主義	高度成長時代の幕開け カー, クーラー, カラーテレビの3Cとマイホーム モーレツ企業戦士	正直, まじめ, 勤勉, 律儀, 気配り, 役割意識などの 執着気質文化	1960年 57% 男60% 女55% 1965年 70% 男71% 女70%	男性28歳 女性24歳	0.7%	ヒステリー 社会参加への葛藤	学齢期 学校恐怖症 青年 学生運動 社会参加と自立への葛藤



時代的変遷と背景(3)

年代	時代的背景	内的価値観	高等学校進学率	平均婚姻年齢	離婚率	女性の示す状況	男性の示す状況
1970年代 ニューファミリー	政治への失望と物質的豊かさ とミーイズム 脱サラとニューファミリー 最高に達する専業主婦率 小子化と核家族化	価値観の揺らぎ 自己中心主義の台頭 正直, まじめ, 勤勉, 律儀, 気配り, 役割意識などの執着 気質文化への葛藤	80~90% 男 80~90% 女 80~93%	男性28歳 女性24歳	0.9%	拒食症 自己への攻撃性 社会参加への葛藤	学齢期 家庭内暴力 行動化, 攻撃性 青年退却神経症 防衛としてのひきこもり



時代的変遷と背景(4)

年代	時代的背 景	内的価値 観	高等学校 進学率	平均婚姻 年齢	離婚率	女性の示 す状況	男性の示 す状況
1980年代 シングル・ マザー	新人類 カラスの勝 手でしょ バブル経 済 性の開放 化 ピークに達 する過労 死 新旧世代 の亀裂	やさしさ, 自分らしさ, 自分に正 直 傷つくこと への怖れ や自我拡 散 外的価値 観の優先 結果主義 支配 挫折感と 不全感	94% 男 92% 女 94%	男性28歳 女性25歳	1.2%	衝動行為 手首自傷 薬物依存 乱用 性依存 強迫的買 い物 境界性人 格障害 自己への 攻撃性と 依存, イ メージの 歪曲	学齡期 登校拒否 校内暴力 いじめ 行動化, 攻 撃性の拡 散 青年 フリーター 社会参加 のきざし



時代的変遷と背景(5)

年代	時代的背景	内的価値観	高等学校進学率	平均婚姻年齢	離婚率	女性の示す状況	男性の示す状況
1990年代 夫婦別姓	不況の時代 組織と国家への不信感 個々人主義の徹底 超早期養育 カルトの時代 援助交際・ブルセラ、テレクラという性破壊 匿名性の自他関係	やさしさ、自分らしさ、自分に正直 傷つくことへの怖れ や自我拡散 外的価値観の優先 結果主義支配 挫折感と不全感	94% 男 93% 女 96%	男性29～30歳 女性27歳	1.2～2.0%へ	解離性障害 ダイエットブーム 解離と理想化、イメージの歪曲	学齡期 解離性障害 キレル子ども 多動な子ども 不登校 行動化と解離、社会参加の難しさ 青年 ひきこもり 社会参加の断念



時代的変遷と背景(6)

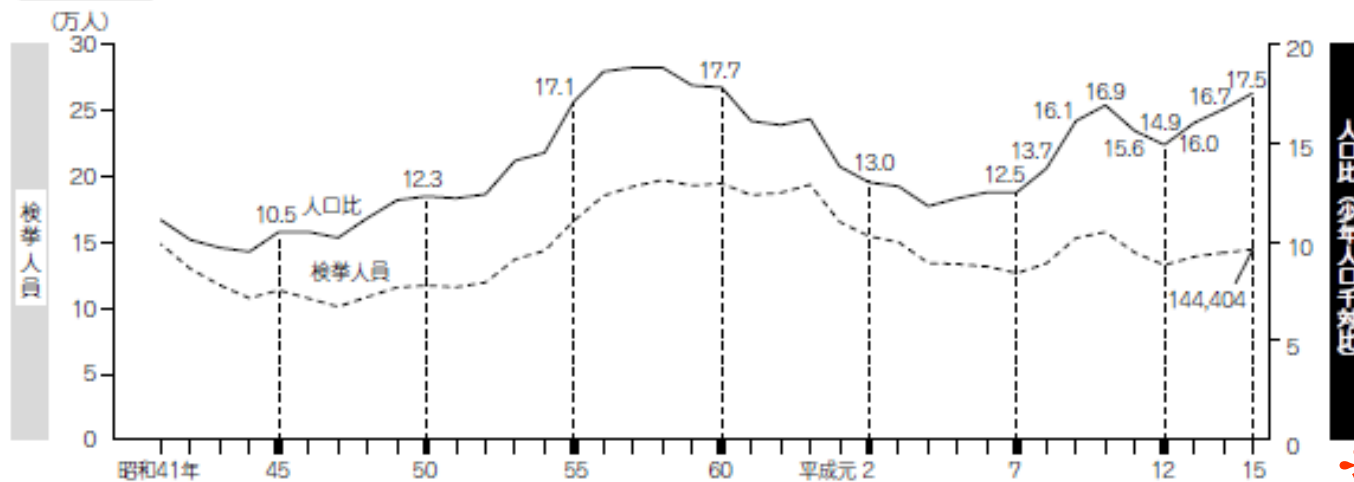
年代	時代的背景	内的価値観	高等学校進学率	平均婚姻年齢	離婚率	女性の示す状況	男性の示す状況
2000年代 IT	情報洪水 価値観の 多様化	個の成立 の困難 自己責任 様々な構 造の喪失	96% 男 95% 女 96%	男性30~ 31歳 女性29歳	2.25%	ひきこもり 無気力 抑うつ PTSD 非行 不登校 Sub- clinicalな問 題へと拡 散 葛藤の所 在が不明 瞭	ひきこもり 無気力 抑うつ PTSD 非行 不登校 Sub- clinicalな問 題へと拡 散 葛藤の所 在が不明 瞭

非行の推移



1. 非行の推移

X-1-1回 刑法犯で検挙した少年（14歳以上20歳未満）の人員及び人口比の推移

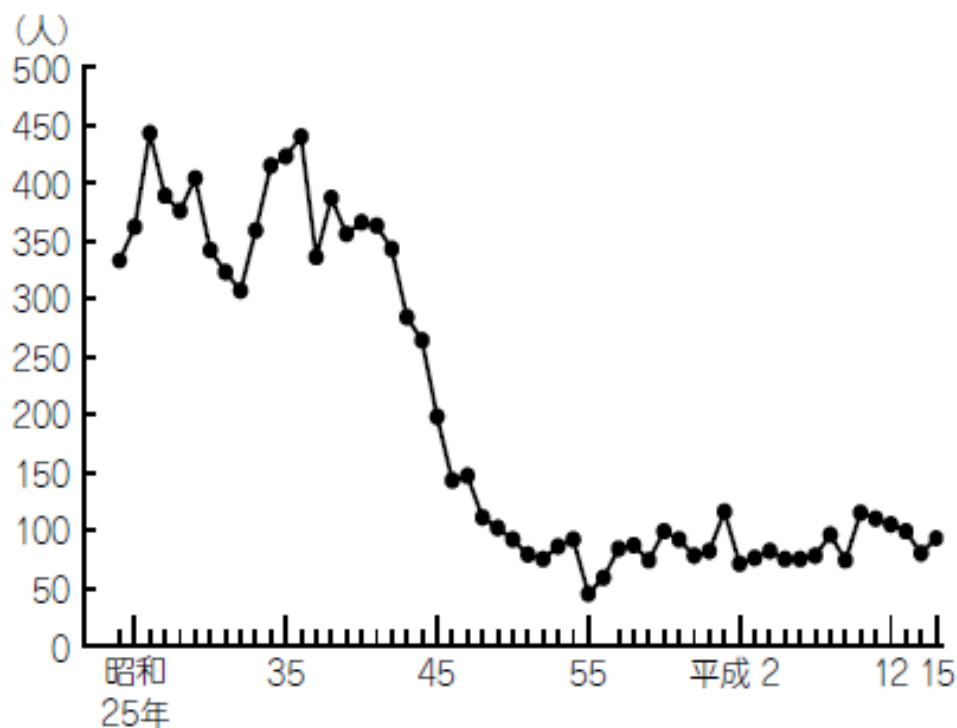


制限資料



殺人の検挙人員

X-2-2図 刑法犯少年の殺人による検挙人員の推移



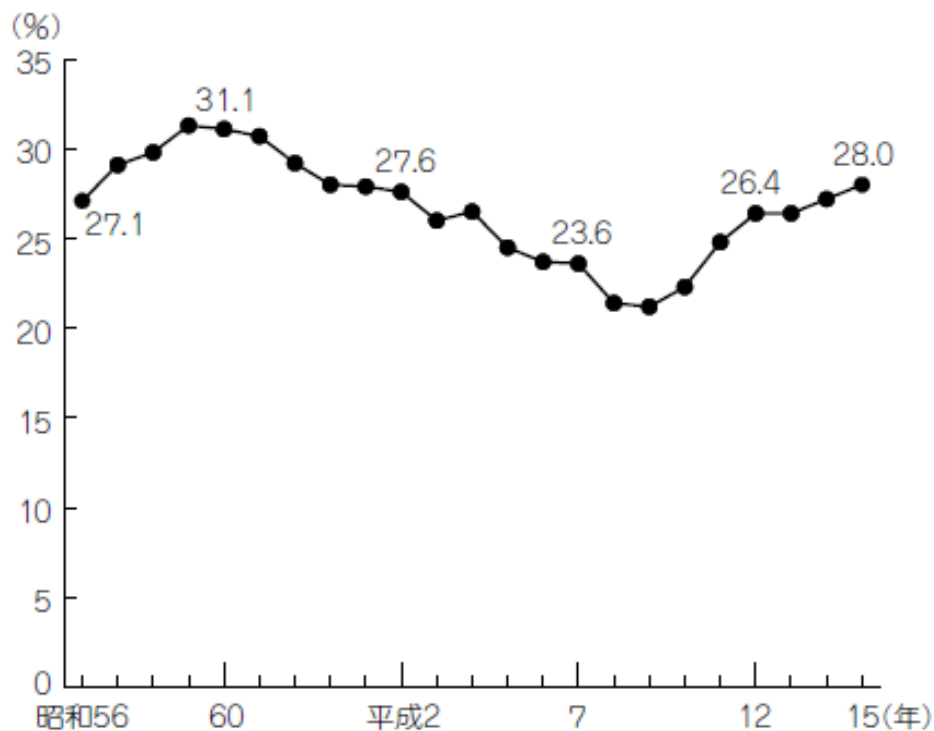
制限資料



少年犯罪の再犯率

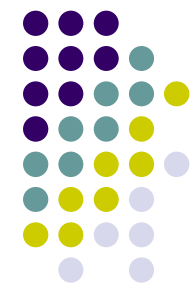
X-2-7図 刑法犯少年の再犯者率

1. 刑法犯少年の再犯者率の推移



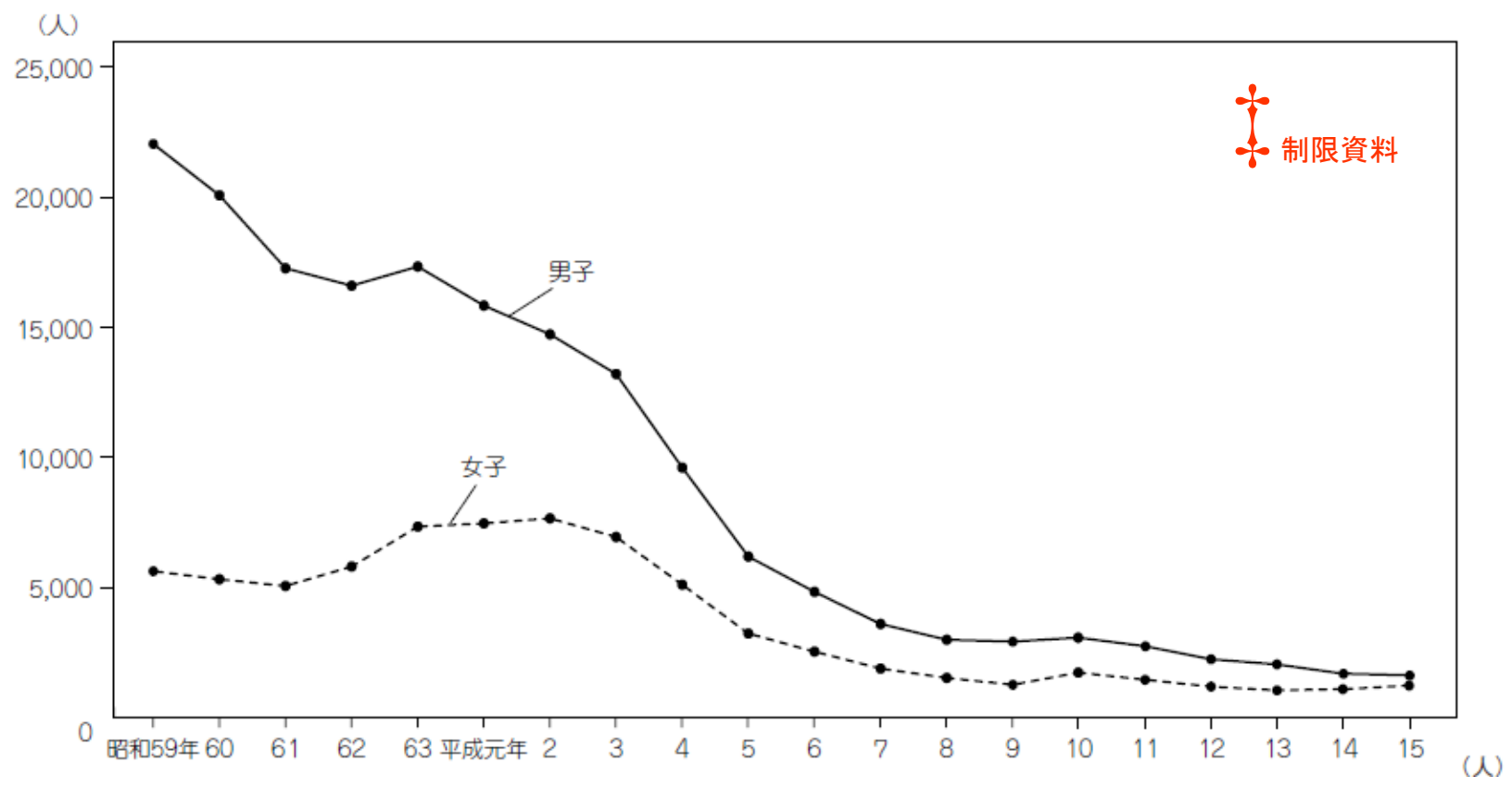
(注) 再犯者率：検挙人員に占める再犯者の割合。



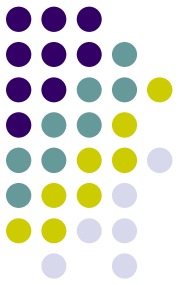


シンナー乱用等の検挙人員

X-2-9 図 シンナー等乱用少年の男女別検挙人員の推移

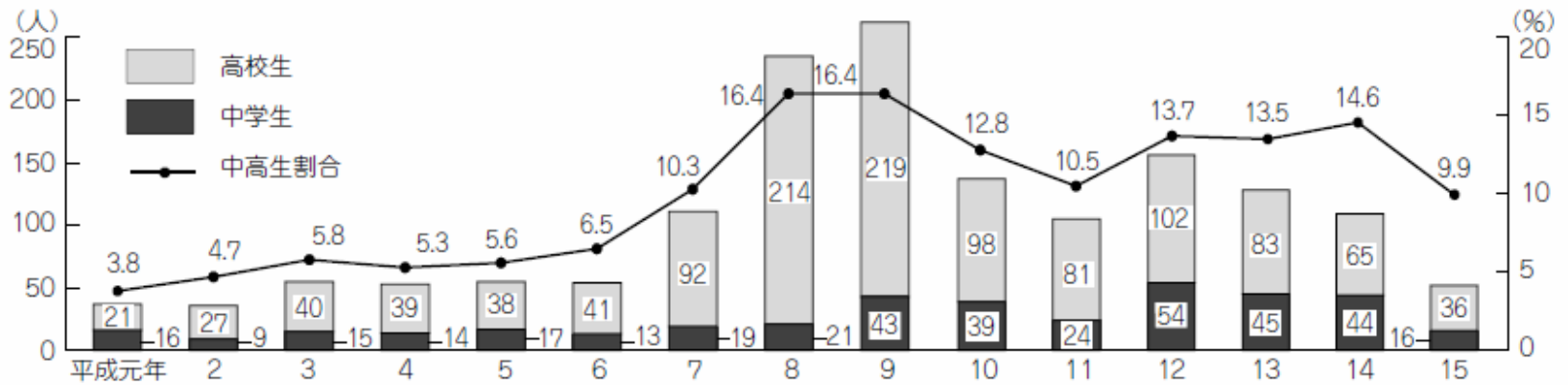


覚醒剤などの検挙推移

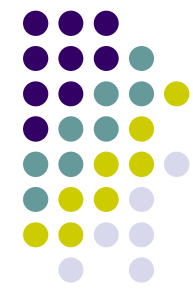


制限資料

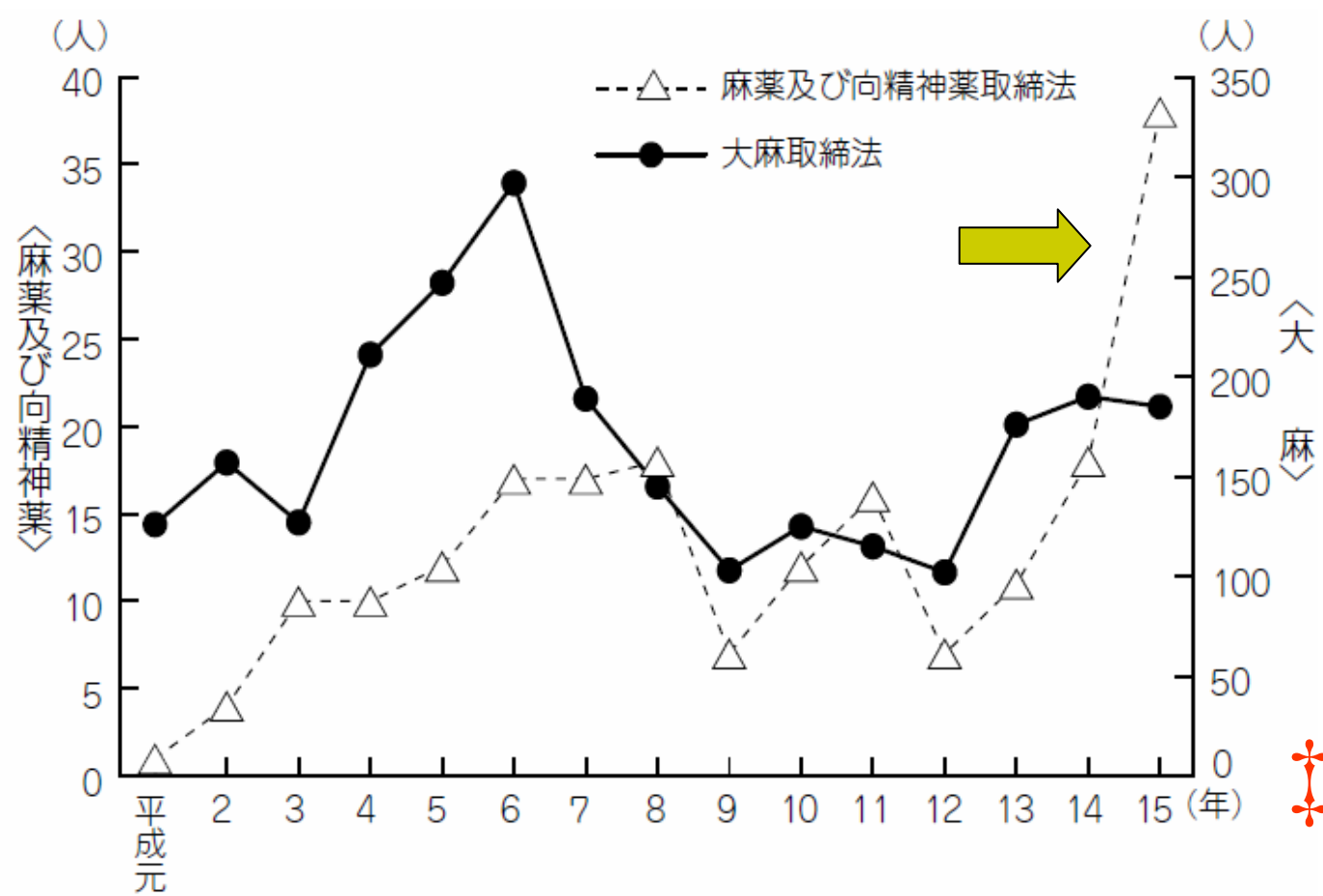
X-2-11図 覚せい剤乱用で検挙した中学生・高校生の推移



資料：警察庁生活安全局「少年非行等の概要」



大麻・麻薬の検挙人員

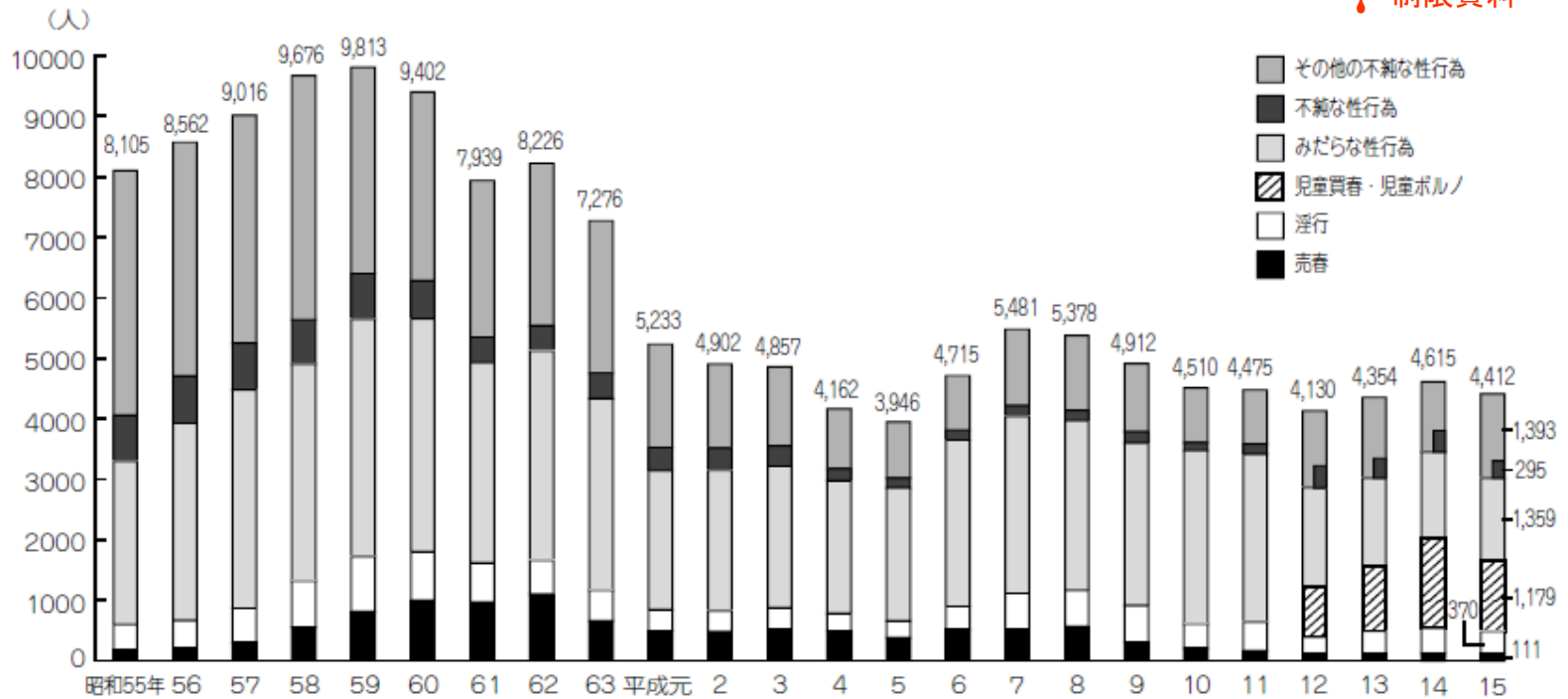


制限資料

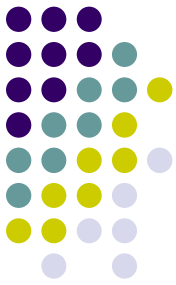
性逸脱行為



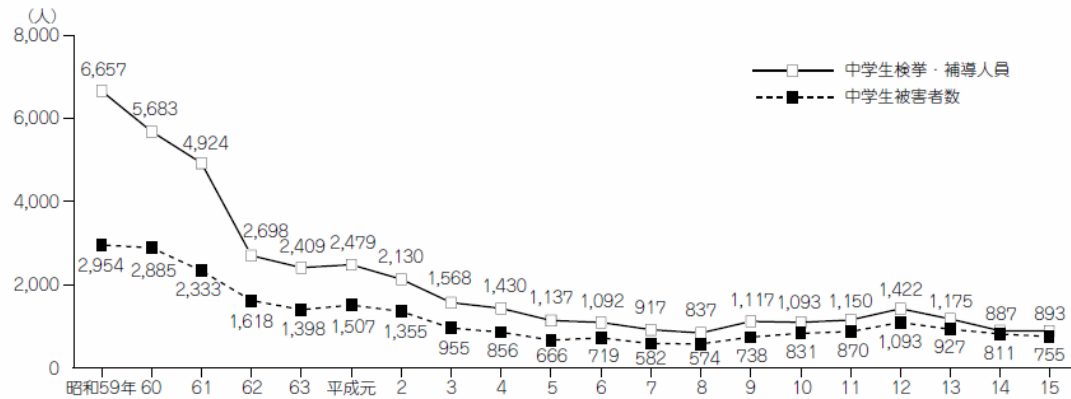
X-2-12図 性の逸脱行為・被害で補導・保護した女子少年・少年の態様別人員の推移



校内暴力

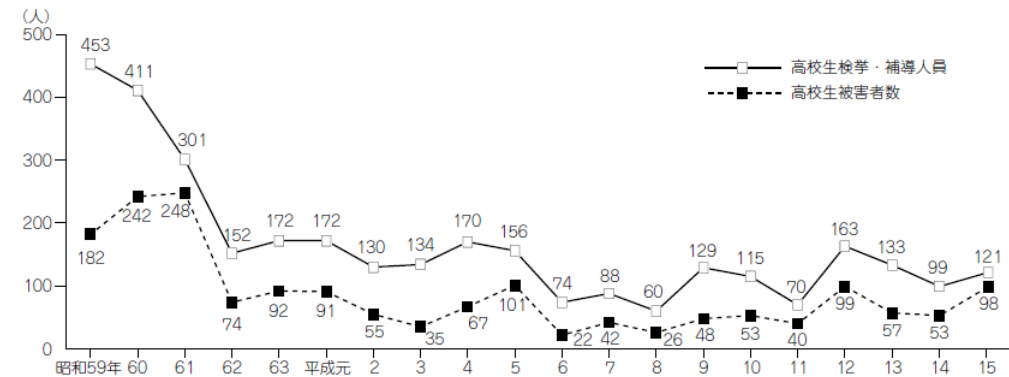


2. 中学生



制限資料

3. 高校生



制限資料

(注) 平成12年から校内暴力事件の定義のうち、「生徒間の暴力事件」及び「学校施設、備品等に対する損壊事件」の前提要件である「集団による又は集団の威力を背景とする」を削除した。

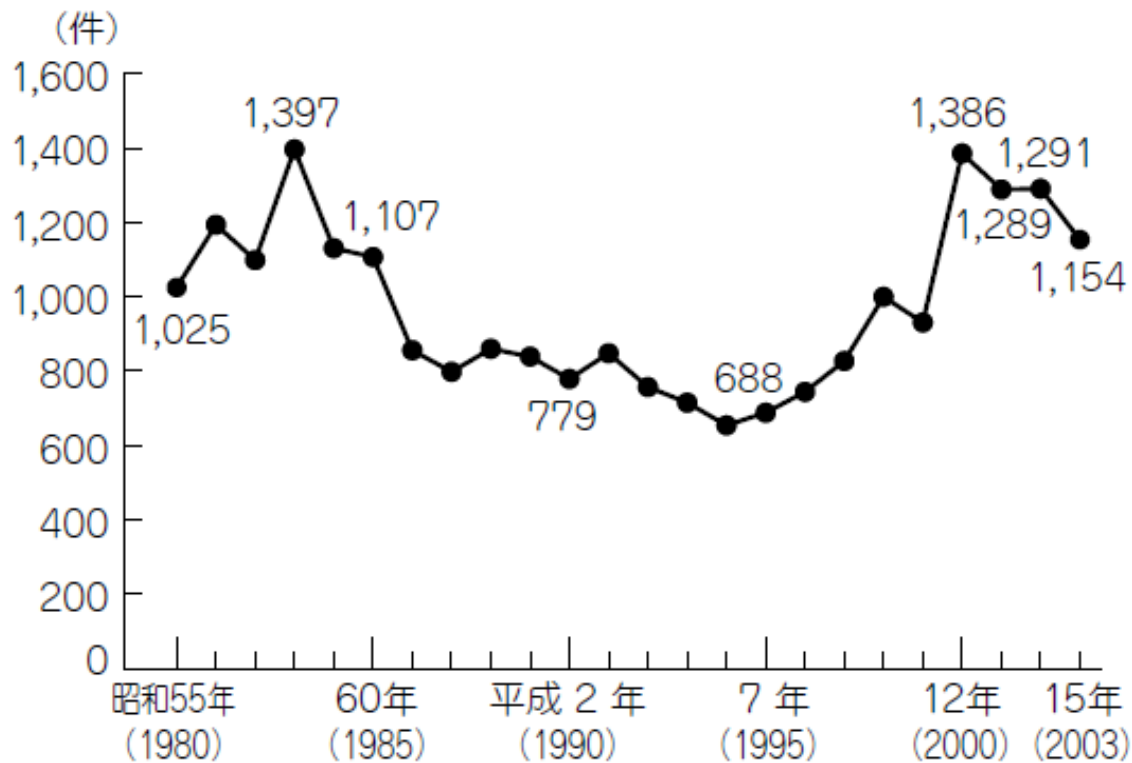
資料：警察庁生活安全局「少年非行等の概要」



家庭内暴力

X-4-1 図 家庭内暴力の推移と対象別件数

1. 推移

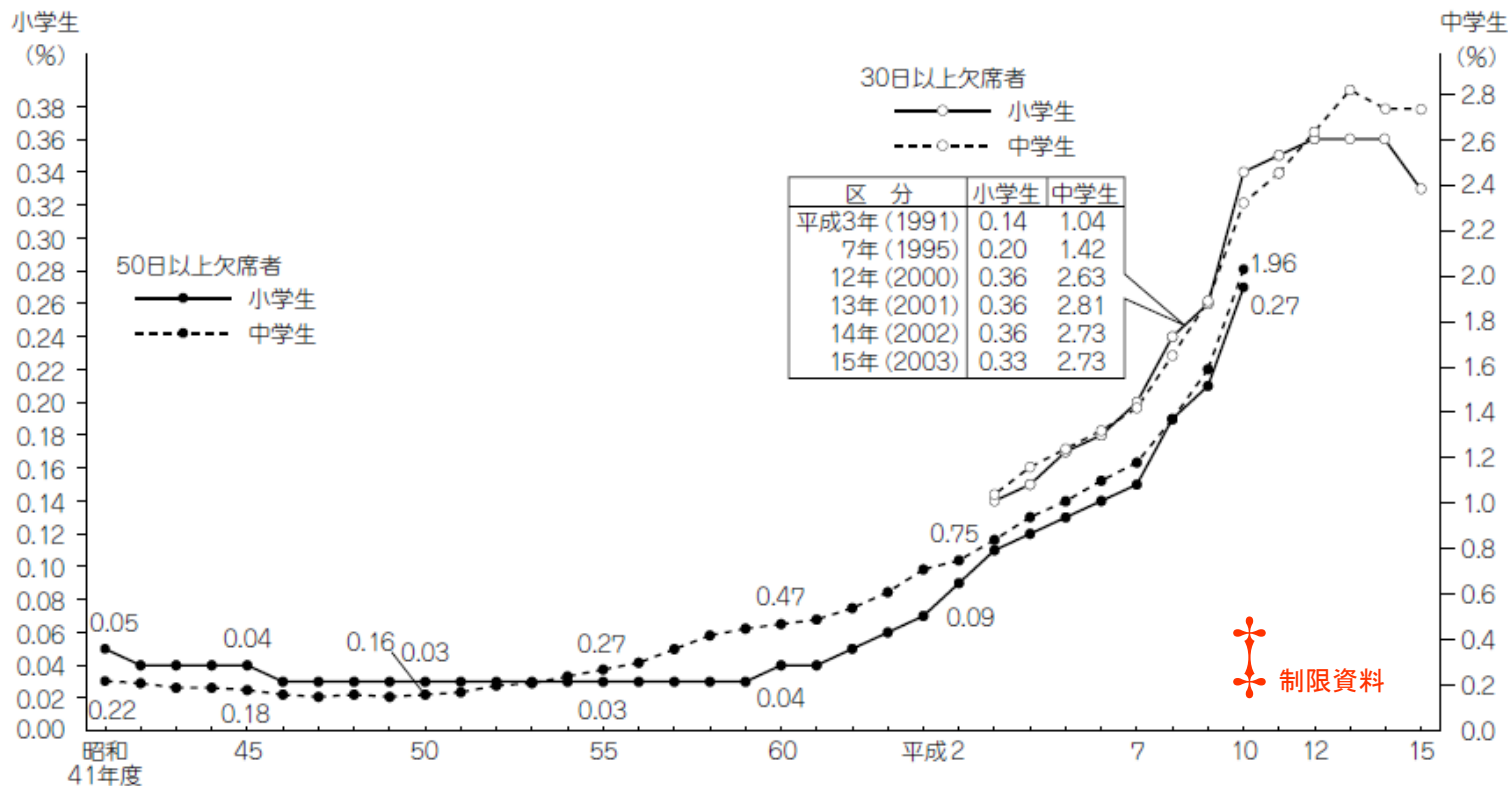


制限資料

不登校



X-7-2図 登校拒否・不登校児童生徒数の全児童生徒数に占める割合の推移



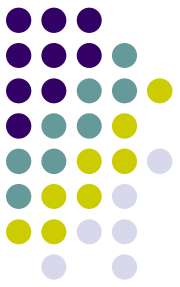
(注) 国公立小・中学校。

資料：文部科学省初等中等教育局「生徒指導上の諸問題の現状と文部科学省の施策について」



家族のライフ・サイクル

	I	II	III	IV	V	VI
	成人前期			中年期		老年期
年齢	20～	25～	35～	40～	50	60～
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・就職 ・結婚 	<ul style="list-style-type: none"> ・第1子誕生 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの受験 ・家族外社会への参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・家を構える ・末子の家族外社会への参加 ・家族機能の縮小 ・父母関係の新たな再構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・第1子の結婚・別居 	<ul style="list-style-type: none"> ・末子の結婚・別居 ・父母の祖母化 ・配偶者の死
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・大人の世界に入る ・親(育てる者)になる 		<ul style="list-style-type: none"> ・己の思春期時代の反抗への再会 	<ul style="list-style-type: none"> ・耐久力 	<ul style="list-style-type: none"> ・大人同士としての関係性成立 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族同士の関係性成立



参考文献

- **力動精神医学を学びたいかた**
 - 改訂子どもの心と精神病理（岩崎学術出版社）
 - 精神分析的発達論の統合1（岩崎学術出版社）
- **統計のデータ**
 - 日本子ども資料年鑑2005（KTC中央出版）